



決勝レポート

2024/5/19 Rd-2 AUTOPOLIS

天候：晴れ 気温：23℃ 出走台数：21台

観客数：18日(土)5,600人 19日(日)8,900人 合計14,500人

週末を通して好天に恵まれたオートポリス、昨日に比べて風が強く、少し肌寒く感じられるが、強い陽射でスタート時点の気温は23度、路面温度は40度を超えた。

牧野選手は抜群のスタートを決めトップで1コーナーへ。太田選手も1台をオーバーテイクし6番手でオープニングラップを周回。好ペースの牧野選手は、オープニングラップで2番手に1秒以上の差をつけると、そこから毎ラップ0.5秒のギャップを築く。

太田選手もペースは良いもののオーバーテイクのし難いオートポリスで先行車のペースに付き合わされる格好。そのためチームはピットウィンドウのオープンした10周目に太田選手をピットに呼びタイヤ交換を済ませる。

牧野選手の後ろ2番手を走る山本選手も10周目にピットインを済ませ、この時点でタイヤ交換組首位山本選手、2番手太田選手と、トップを走る牧野選手の「見えない戦い」が始まる。

牧野選手はレースをコントロールしながらペースを維持し、25周目に2番手岩佐選手と同時ピットイン。チームのピット作業は完璧にきまり、事実上の首位をキープしてコースに復帰。2番手山本選手、3番手太田選手の順でレース後半を迎える。

表彰台圏内を維持したい太田選手は、フレッシュタイヤの後続グループを必死に抑えるが、早目のタイヤ交換でタイヤ消耗も激しく、2台にかわされ5位でチェッカー。

牧野選手は終始トップでレースをリードし、スーパーフォーミュラシリーズ参戦6年目にして待望の初勝利でレースを終えた。

5：牧野任祐 選手 優勝

ダンディライアンに移籍して3シーズン目。「言い訳のできない環境」を整えてもらいながら優勝に届かず、これまでのチームメイトが優勝していく中で、もどかしい状況が続いていました。レースは戦略もレースペースも良くて、初優勝でき正直ほっとしたという気持ちです。支えてくださる協賛企業の方々、ファンの皆様、ここからは目標をチャンピオンとして切換え、チーム一丸となってしっかりと準備して次戦菅生に臨みます。

6：太田格之進 選手 5位

戦略もレースペースも良かったのですが、前を走る山本選手を攻略できず、レース後半を見据えてタイヤの消耗を抑えることも考えていましたが、フレッシュタイヤの後続を抑えきれず5位となりました。予選の僅差を制していれば結果も違っていたと思います。週末を通して良かった部分と反省そして課題も見え、次戦に向けて糧となるレースでした。

次戦菅生でまずは予選をしっかりとまとめ、牧野選手とダブル表彰台を目指したいです。